

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹936-1		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2090100062-00&ServiceCd=320&Typ
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	令和3年8月20日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

事業所として目標とし、全スタッフで共有する理念を大切な指針としてご利用者様、ご家族様の幸せの追求を目指しています。
 今年は理念を基に人材育成にも配慮し、特に新人育成に関してはリーダーが理念を含めしっかりと伝えるガイドラインを検討し、新人スタッフが不安なく仕事に集中できるような環境づくりに努めました。
 事業所として、地域との信頼関係も年々深まり、地域の中で生活していることに感謝し、「当たり前の日常を大切に」今後共地域に愛される事業所づくりに取り組んでいきます。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

理念の利用者の尊厳ある生活の下に、職員は人格の尊重、プライバシーの確立、利用者の権利等について学習を重ね、意識を高めるとともに、日々の業務のなかでお互いに確認し合いながら利用者を支えているので、丁寧な言葉遣い、優しい対応は利用者にとって心地よく、職員の質の高さを感じる。認知症デイサービスの始まりで、通所する利用者がホーム外の風をもらし、また、両者が相互に安心感を得てフロアでの活気も高まり、それぞれの生活の励み、楽しみとなっている。
 コロナ禍での新たな生活スタイルの取入れなど、柔軟な支援の始まりはグループホームの原点の再認識となるであろう。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(ひまわり)

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。 2湯につと以上の場合は

ユニット名(さくら)			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない		○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない		○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)
	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		
	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		

自己評価及び外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の会議による理念の唱和や勉強会等で理念を基にベクトルあわせ、事業所の目的(ご利用者様、ご家族の幸せ)を皆で確認し合い、理念に基づくサービス提供の実践につなげています。	経営層、管理者、リーダー層の徹底した法人理念の周知、啓発が進んでおり、それを介護の現場で活かすように日々の取り組みのなかで努めているので、利用者のその人らしい暮らしを垣間見ることは容易である。また、利用者から認知症介護について学ばせていただいているという意識が高いのも、関係者の理念の理解度、ベクトルが一致している証と思われる。	常に理念に立ち帰る、この実践が続くことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お茶のみサロンを始め、地域のボランティアの方の発表、幼稚園との夏祭り、クリスマス会など多岐にわたり地域とのつながりがありますが、コロナ感染症により現在は控えています。	この1年はコロナ禍のため、また、利用者、職員のワクチン接種が遅れていたため、地域とのつながりを担う活動は狭まっている。しかし、可能な限りの代替え案を実施するなど、ネガティブ思考からポジティブ思考へと、専門性を発揮する取り組みが始まっている。	今後も、積極的な代替え案の検討、実施を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍により、地域の方々と交流をもつ機会が少なくなっておりますが、運営推進会議等により、認知症やグループホームに対する理解につながる発信をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍により、皆で集まる運営推進会議は控えておりますが、避難訓練、コロナ対応、ご利用者様状況等定期的に活動を報告し、意見交換等書面にて実施しております。	この1年はコロナ禍のため、集合しての会議が困難となり、詳しいホームの様子などは文書を通してのものとなっている。そこには、昨年度との活動内容の変化なども載せ、現状把握を容易とし、意見、提案を受け入れる姿勢がみられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	台風による防災対策や新型コロナウイルス予防など様々な緊急事態が毎年続いており、予防策や対応策、情報共有等、協力体制を築いています。	この1年はコロナ禍のため、以前にも増して市担当課とのつながりが深まり、連携は順調である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠を含め「身体拘束」に対し、正しく理解する機会を設け、具体的な例を挙げながら、自分たちのケアが身体拘束につながらないかなどを含め勉強会を実施しています。また、身体拘束等適正化委員会による各ユニットの身体拘束の有無や危険等についても検討しています。	定期的な身体拘束適正化委員会の活動があり、内部研修では動画を活用し、視覚的に意識付けを図るなどの取り組みもある。また、研修後は一人ひとりの感想も記録し、利用者に対しての自覚の深まりを狙っているものと思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議で虐待や拘束に関する新聞、報道等の情報共有を行い、自分たちでも起こしてしまう危険性があることを意識し、ご利用者様がどのような状態、変化があっても虐待の防止を徹底していけるチームづくりに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、介護スタッフ(リーダー)は研修を受け、理解しているスタッフも複数います。入居するご利用者様には権利擁護支援を受けている方もおり、実情と制度の理解につながっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用料金等の説明を行い、ご家族の方の不安や疑問点について話し合いをし、同意、理解していただいています。また、法改正による料金改定時等、その都度ご家族へ説明文を添付し、理解、納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にもホーム苦情担当、公的苦情場所を記載し、意見をどこへ、誰に伝えることができるかを明確にし、また、運営推進会議への参加、太陽通信、意見投書箱等により、伝えやすい雰囲気作りを心掛けています。	定期発行のホーム便りを活用して、コロナ禍での日常の過ごし方について報告したり、意見を求める取り組みを行っている。そこでは、前年度のデイリープログラムとの活動数の変化や、市内の感染者の状況に応じて、随時、面会の可否なども載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、勉強会等によりスタッフが意見提案できる雰囲気作りを心掛け、個別面談も定期的実施しています。有益な意見は積極的にサービス向上に反映させています。	一人ひとりの利用者の状況の変化、ヒヤリハットの件数や内容について、月1回の見当で対応などを話しあっている。また、食材の買い出しの困難さがあるための食材宅配業者の利用や、日々の業務日誌の詳細な利用者の様子については業務負担もあり、アプリ使用の検討も始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は定期的に全スタッフとの面談を行い、各自の適性や個性を理解することに努めると共に会社のビジョンを伝え、本人とともに目標を掲げ意欲向上につなげております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人材育成に関して、法人及びリーダーは特に新人育成には様々な配慮をし、1歩1歩着実に階段を自信をもってケアにあたることができるよう取り組んだ。外部研修はコロナ禍で控えていました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍により、交流する機会や勉強会等は減少しましたが、リモート、オンライン等による情報共有等の実施により、コロナ対策や周辺の施設、グループホーム等の活動状況を知るなど資質の向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント、ケアプランを参考に、ご利用者様と積極的にコミュニケーションを図り、共に生活をしていく中で不安や心配に耳を傾け、ご利用者様の安心と信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み時、面談時等、ご家族の不安等の気持ちを深く理解するよう努め、不安や心配に感じていることを解消する方法を過去の事例や現在のホームの状況を伝えながら、共に考え、受け止め、改善できるよう前向きな話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談、申し込み、面談等を行う際、できるだけ細かい情報を頂き、そのご利用者様に何が必要なのか、どんな心配事や悩みを持っているのかなどを確認し、その時々状況に応じて対応させていただいています。		
18		○本人と共に禍ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意思と尊厳を大切に、ご利用者様の性格、病状、個性を理解し、職員の一方的な思いで行なう指示や行動を控え、より良い関係作りを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時、スタッフはご利用者様の生活状況などを伝え、ご家族とのコミュニケーションを大切にしています。また、病院との連携による身体状況等情報を共有し、ご家族、ご本人の考え、気持ちを大切に、信頼関係の構築に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍により馴染みの人と会ったり出かけたりすることが難しい状況ですが、電話でお話しする機会をつくり、これまでのご縁やつながりが途切れないように努めています。	この1年はコロナ禍のため、面会の可否や外出制限があり、なかなか思うように関係継続ができない状況であったが、デリバリーや出張販売などを取り入れるなどの代替案で対応している。なお、日常的な少人数でのご近所の散歩は継続して行っている。	コロナ禍が続くとはいえ、個別の外出支援や生活の楽しみの充実などはグループホームの個別ケアの基本であり、専門性を駆使した新たな満足を得る取り組みの検討、実施は、グループホーム関係者の専門性の具現化と意識を更に高めたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の相性、性格等に配慮し、日常生活の中で、役割、レクや団らん等を行ないながら円満な人間関係を築いていけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設、病院等に移られたご利用者様、ご家族とは面会させていただいたり、連絡を取らせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のADL状況を理解し、安心して暮らす空間、時間を大切にしています。また、それぞれの趣味、趣向を大切に、日常の中で散歩、畑、塗り絵や手芸等、様々な形でその人の暮らし方を大切にしています。	各職員は認知症の知識の理解から、日々の関わりの経験から理解するレベルに達しており、日常の穏やかな活動が利用者に着きを与え、安心、安全な暮らしが続いている。	理解レベルの上達に合わせて、常に立ち止まって見る、考えるという職場環境が更に進むことで、グループホームケアから認知症ケアへの充実が容易と思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様、ご家族、関係機関(地域包括や病院、居宅ケアマネや以前使っているサービス事業所等)からの情報や話し合いを行い、それらの情報をスタッフ全員で情報共有し、それまでの暮らしや思いの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月の会議では、ご利用者様毎にモニタリングを実施し、ご利用者様のできることや心身状態の把握、喜びある日常を過ごせるよう努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族や病院等必要な情報や意見を基にケアプランを作成し、毎月の会議時、スタッフ皆でモニタリングを行い、現状に即したケアプランの作成、実践を行なっています。	日々の総合チェック表は、主食、副食、汁物の摂取量、バイタル、口腔ケア、嚥下体操、便尿など、一目で把握できる仕組みで、職員も理解しやすく、モニタリング会議での活用も容易となっている。		現状に即した計画の作成においては、職員が意識しての支援がしやすく、また、後日の評価の根拠を示す実施記録など、更に工夫が必要と思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録等により、日々の様子を記録し情報の共有を行っています。また、変化のあった事、気になる事は申し送り事項として確認しあい、重要なことは毎月の会議で話し合い、モニタリングを行い介護計画に反映させています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族の状況により、ホームで支援できることはできるだけやらせていただき、また独居高齢者、生活保護者等に対する柔軟な対応を行なうことも社会貢献の一環として捉えています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	例年、お獅子舞に子どもお神輿、お茶のみサロン、地域ボランティア等、様々な交流を実施していますが、コロナ禍により機会が減っているなか、安心安全に暮らすため区長様、地域包括支援センターとの連携、情報共有に努めています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族の承諾のもと、かかりつけ医との24時間対応、往診等協力体制を築き、ご利用者様、ご家族の安心につながっていると感じます。また、専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制に整えています。	本人、家族が望むかかりつけ医の支援と、協力医療機関(複数)をかかりつけ医とする場合は同意のうえでの受診としている。特に、協力医療機関との連携は密で、往診を含め、生活での留意点等の的確なアドバイスを、利用者の健康を支え、家族への安心を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週医師あるいは看護師訪問があり、介護スタッフは、ご利用者様の体調変化や気づいた事、医療についての相談ができる関係を築いています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前のご本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時には、重度化、見取りに対しても説明を行います。また、ご利用者様の心身状況の変化に伴いご家族との話し合いの場を設け、連携医師と話し合い、今後の方針を相談するなどの対応をしています。そして、ご家族の思いや今後の方針は会議時、スタッフ全員で共有し、ターミナルケアに取り組んでいます。	入所時にターミナル指針にて、事業所の対応し得るケアについて説明している。状態の変化の際は、本人、家族の意向や願いをかかりつけ医や関係者とともに話し合い、職員間で今できる最大のケアに繋げ、共有しての実施となっている。	生活を共に過ごした利用者の終末に際しては、職員にも緊張や不安があり、また、見取り後の喪失感や心残り等がみられるものであり、職員のその後に向けての精神的なサポート、他の利用者へのフォローや対応の統一など、体制の整備を更に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、連絡方法、避難方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	通報、避難訓練の実施とともに台風、水害を含め災害時の避難場所確認や備品管理等を行い、緊急時に全職員が対応できるよう研修、訓練を実施しています。また、地域の消防団との連携協定を結び情報共有、安否確認等、協力体制ができています。	前回評価での目標達成計画として、不足の災害マニュアル作成を上げている。そして、洪水時の避難確保計画、地震防災対策マニュアルを新たに整備し、確実な避難となるように図っている。年2回の避難訓練には運営推進会議メンバーにも見学してもらい、意見や助言を得て、万全を目指している。また、新規職員には4月の段階で防災教育と訓練を実施し、いつでも戦力となるように取り組むなど、利用者の安心、安全な体制づくりに取り組んでいる。	近年の諸災害は、想定外とは言えないレベルのものが多くなっている。常に危機管理の意識を持ち、今後も課題や教訓をもとに対策や体制をより整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議や研修の中でご利用者様の尊厳、配慮等について話し合い、ご利用者様に対する言葉かけは、日頃から、礼節をわきまえた言葉と温かみのある丁寧な言葉をスタッフ一同意識しています。	利用者一人ひとりの理解を目指し、認め、敬い、自己決定を基本としたその人らしい生活を支援している。人格の尊重については学習会や研修を重ねて意識を高めるとともに、常に職員間で確認し合うなど、組織的に取り組んでいる。このことは家族アンケートで、職員の利用者に対する評価が高いことでもわかる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	外に出て日向ぼっこをしたり、ソファでゆっくりする、お部屋で編み物をしたり、皆とお茶をするなど、日常生活の中でご利用者様の希望や思いが実現する日々を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所、スタッフ間で優先すべきは「ご利用者様」の気持ちや生活であることを理解し、業務優先ではなく、その人らしさ、一人ひとりのペースを大切に支援できるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容院でパーマをかけるご利用者様や外出時、お散歩等にお化粧をしたり、お出かけ用の衣類を選んだり身だしなみ、おしゃれなどに配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	味、バランス、栄養とともに彩りにも配慮した新たな食材業者とパートナーシップを結び、ご利用者様と食事作りに盛り付け、片付けまでお手伝いいただきながら、お食事を楽しんでいただいています。	食材業者の活用で栄養士による献立を調理し、バランスの良い食事の提供を行っている。 感染対策のうえで、利用者の食事作りや一連の作業で役割を持ってもらい、張り合いとなっている。また、飛沫感染ガードを設置し、皆と一緒に食事することで話題も豊富で、楽しみなひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量はチェック表により把握できるようにし、個々の健康状態に応じて、水分摂取量、食事量、栄養補助食などバランスや健康を確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施し、介助が必要な方には介助を行い、自立されている方にも見守り、確認を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄を大切に、ご利用者様一人ひとりの排泄パターンをチェック表等を参考に把握し、トイレでの排泄、自立した排泄支援に努めています。	本人の生活リズムに合わせた排泄を心掛け、個別の実施方法のもとに支援しており、必要な利用者には、さりげない声掛けや介助を行い、羞恥心への配慮にも努めている。そして、日に何回もの掃除を行い、清潔と使いやすいトイレ整備にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や食事、水分での予防、腹部マッサージ等の工夫を行い、場合によっては医師との相談により予防、対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	午前、午後などの時間帯は決めず、「お昼寝をしたいから午前に」、「畑に出て汗をかいたから」等ご利用者様の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるよう努めています。	午前、午後入浴を可能とした、利用者の希望に沿った入浴の実施である。 また、個別の入浴に関する実施方法で、利用者は負担感なく、入浴を楽しんでいる。 入浴以外でも、本人の希望や足の浮腫などの際には足浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の状況、その日の体調や希望により必要な休息をとっていただき、不安がある時はゆっくりと話を聞いたり、お茶をして安心できる環境を整え、ゆっくりと安眠できるよう取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬による目的を理解し、副作用、変化等に留意しながら、スタッフ一人ひとりが責任を持ちながらも、ダブルチェックできる体制を作り、服薬支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日の日課の中での役割(お掃除、洗濯、調理やお茶準備等)、散歩など、メリハリのある生活を行ないながらゆっくり話を聞く、声を出したり、体を動かしたりと、小さな喜びを大切にに取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍でかなり制限があったなかで、ご利用者様の希望をもとに散歩や季節を感じるドライブに出かけたり、庭の畑や地域(お隣様)と世間話をするなど、日常的な外出支援に努めてきました。	コロナ禍で地域の集まりも中止となったり、外出も制限されるなか、少人数で密にならない場所へのドライブ等を実施している。 また、近くへの散歩や敷地内の東屋での団欒、畑の作業や生育の見学などで気分転換となるように努めている。	コロナ禍が続くとはいえ、個別の外出支援や生活の楽しみの充実などは、グループホームの個別ケアの基本であり、専門性を駆使した新たな満足を得る取り組みの充実を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	数名のご利用者様は日頃から所持していません。また、スーパーへのお買い物などはコロナ禍で実施できない環境でしたが、移動販売やパンの販売などでお買い物(お金の受け渡し含め)を楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙などが届くと、ご本人と一緒に読み上げ、お部屋に大切に保管します。数名のご利用者様は携帯電話を所持し、日々やり取りをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングと居室、トイレなどの動線を意識し、整理整頓を定期的に職員皆で実施しています。また、季節に合わせた空間づくり、明るい雰囲気を中心掛け、ご利用者様に心地よく過ごしていただけるよう取り組んでいます。	外出が制限されるなか、ホーム内で季節感が感じられるよう、行事や季節に合わせた作品づくりやその展示で雰囲気を盛り上げている。また、整理整頓、清掃に力を入れ、清潔で心地よい環境を整えている。特に、共有スペースは感染対策に努め、酸性水消毒、加湿器設置、定期的な換気、飛沫防止ガード設置など、危機管理の徹底を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では小上がり、ソファなどがあり、各々の居場所できつろぐ場面が見られ、また、玄関先にも椅子を設置し、外が気になる方、1人になりたい方等にも配慮し活用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、自宅で使用していた家具や思い出の品々を置いていただき、また、毎年の誕生会や敬老会の記念品など、その人らしい安心できる空間づくりに配慮しています。	どの居室もフローアーから直の造りなので、プライベート空間である居室についてはどの職員も対応には気を付けている。また、入所時に馴染みのものの持ち込みを勧めるなど、その人らしい居室になるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様の「できること」と「危険なこと」を理解し、ご利用者様の様子観察をしっかり行なうことで、安全と自立のバランスを保つよう努めています。		